

町のシンボル旧役場庁舎

斜里町本町に築85年を経過する歴史的な公有建造物があるのをご存知でしょうか。現在は町立図書館として多くの方に活用されていますが、昭和43年以前役場庁舎として使用されていた建物です(写真1)。実はこの建物、建築年以外は詳しいことがよくわかっていません。今回、古写真等を調べていくうちに明らかになってきた旧役場庁舎の建築時の様子や増築の背景などをお伝えします。

この建物は現在鉄骨で補強されていますが、昭和4年に建築された当初は木造モルタル塗りでした。外観は、ハーフティンバーと呼ばれる木造の構造体を外壁にあらわした構法が特徴的であり、内部では階段周りが美しく、洋風の作りとなっています。昭和初期に建築された洋風役場庁舎は、北海道にはほとんど残っておらず、北海道の歴史を語る上でも貴重な建物です。

では、いったい誰が設計したのでしょうか。設計図にも棟札にもその名は記されていませんでしたが、1枚の古写真(写真2)からその手がかりを得られるかも知れません。

この写真は昭和9年に撮影された網走町役場です。スライド式の縦長窓の形状や玄関の屋根部分の作りがどことなく斜里の旧役場庁舎に似ていると思いませんか？ さらに建築は昭和4年と斜里の旧役場庁舎と同じです。今後詳しく調べる必要がありますが、ひょっとすると同一の設計者によって手がけられたものかも知れません。

さて、この旧役場庁舎ですが建設当時の姿をそのまま留めているわけではありません。建築当時の写真と、戦中あるいは戦後に撮影されたと思われる写真(写真3)を見比べてみましょう。あきらかに違う箇所があることに気づくと思います。正面向かって左側にテラス付きの望楼が増築されているのです。戦時中に増設されたのであれば、敵機の接近を見張るための監視塔として使用されていた可能性が考えられます。

それとは別にもう一箇所、正面玄関部分が建築当時とは異なることにも気づいたでしょうか。建設当時は人が乗っても大丈夫なほどがっちりとした作りであるのに対し、改築された玄関は、経費がかけられなかったためか一回り小さい木造のものへと変わってしまったようです。また、戦後には玄関上部の外壁に洋風建築を意識してか、「SHARI TOWN HALL」と英語で書かれていたようです。この他にも現在の姿と比べていくつか異なる点があります。このように、斜里のまちが変わっていくのとともに旧役場庁舎も姿を変えながら現在まで残ってきたのでしょう。

この建物は下町を一望出来る場所で旧役場庁舎と



写真1 旧役場庁舎(昭和4年 新築落成時)



写真2 網走町役場(昭和9年)

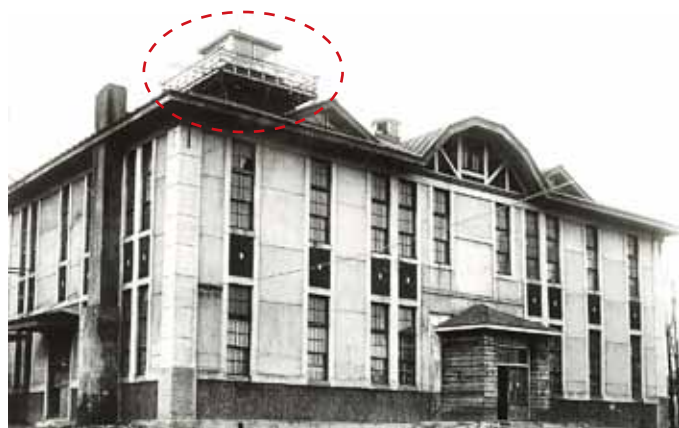


写真3 旧役場庁舎(戦後?)

しての役目を終えた後も、しれとこ資料館や町立図書館として長年活用されてきました。昔の斜里町を想像しながらゆっくりと見て回ってはいかがでしょうか。

(平河内毅)

発行 知床博物館協力会 2014.6.25
099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49
斜里町立知床博物館内
TEL: 0152-23-1256 FAX: 0152-23-1257
NEW! <http://shiretoko-ms.sakura.ne.jp/>